



あかしや

～ 命・夢・仲間をつなぐ学校 ～

山形市立第九小学校
令和4年3月9日 No.15
発行:校長 大沼清司
山形市馬見ヶ崎 2-5-1

学校・家庭・地域が一体となって、あかしやっ子を育てる

前号で、令和4年度の学校経営全体構想についてお知らせいたしました。コロナ禍の2年間で学んだ知見を生かし、一つ一つの教育活動の意義を問い直しながら、本当に必要な教育を見極めていきたいと思えます。

とくに、来年度の重点目標である「豊かなくらしを自ら創り出す子どもの育成」を目指し、
＜4つの資質・能力＞

「向上心（挑戦し、やり遂げる力）」

「自己指導力（自分で自分を正しく導く力）」

「伝え合う力（聴き合い伝え合う力）」

「思いやり（自分も相手も大切に作る心）」

の確かな育成に向けて、ぜひ地域全体で同じ方向を向いて健全な子どもたちを育てていくことができますよう、ご理解とご協力をお願いします。

「豊かなくらしを自ら創り出す子ども」とは、社会や生活の様々な変化を前向きに受け止め、自他共に価値ある存在として尊重し、協働しながら様々な課題を乗り越え、豊かな生活を主体的に創り出していく子どもです。これからの時代に必要な「たくましくしなやかに生きる力」を身に付けた子どもです。

＜ご支援・ご協力いただきたいこと＞

「向上心（挑戦し、やり遂げる力）」＝高みを目指して果敢に挑戦し、試行錯誤や再挑戦を繰り返しながら、あきらめずに粘り強くやり遂げる力を育てる

まずはお子さんの可能性を信じてあげてください。どの子も「もっとよくなりたい」という思いを必ず持っています。はじめから「無理」とか、「もういい」という限界をつくらず、初めてのことや難しそうなことにも果敢に挑戦する勇気を応援してください。挑戦しようと立ち上がったこと自体が素晴らしいことなのです。

活動を続けていく上で、失敗やトラブルはつきものです。また、途中で怠け心に負けたり三日坊主なったりすることもあります。それらを「今こそ成長のチャンス」と捉え、「なぜそれに挑戦したのか」「どんな自分になりたいのか」と初心に戻らせ、「どうすればそれを乗り越えられるのか」を一緒に考えてください。どうしても自分で見つけられないときには、いくつか選択肢を与え選ばせてみましょう。大事なのは自分で自分の行動を決定することです。自己決定するとそこには自己責任が生まれます。子どものうちにどれだけ失敗や挫折を乗り越える経験ができたかが、予測困難な時代にたくましく生き抜く力の糧となります。

あきらめずに最後までやり遂げることができたときには、大いに喜び合いましょう。「あなたはえらい、素晴らしい」という褒め言葉も大事ですが、「わたしはうれしい、誇りに思う」といったI（アイ）メッセージを伝えることがより効果的です。

「自己指導力（自分で自分を正しく導く力）」＝よりよい生活を目指して、正しいと思う行為を自分で判断し実行していく力を育てる

昔はよく、「お天道様が見ている」とか、「地獄でえんま様に舌を抜かれる」という言葉で

自己指導力を育てていましたが、ここまで科学が発達し、情報が豊かになるとそうはいきません。誰も見ていないときでも、自分の行為を客観的に俯瞰しながら、人として正しい行為を選択し、実行できる力を付けていくことは大人になる上でとても大切なことです。

そこで本校では、まず「自立登校」において正しく安全に登下校することで、自己指導力を養いたいと考えています。走らずに半分歩き（歩道の片側を開ける）で歩く、雪玉を投げない、斜め横断をしない、通学路ではない道を通らないなど、誰も見ていないときだからこそ、自分で自分を律しながら歩く力が試されます。安全な登下校は、「いのち」を守る最も大切な活動の一つです。毎日、口が酸っぱくなるほど、「事故に遭わないように気をつけて！」「道路を渡るときは止まって確認！」「遊ばないでしっかり前を向いて歩くんだよ！」とお天道様の代わりに声をかけ続けてください。時には、一緒に通学路を歩いて、お子さんの登下校の様子をチェックしてみてください。

＜登下校指導の5か条＞

- ① 朝8時から8時10分までに学校に着くように登校する。歩道の半分歩きをして、迷惑をかけないで歩く。自分から進んであいさつをする。
- ② 上学年（心が育っている人）は、下学年（まだ助けが必要な人）の面倒を見ながら登校する。危ないことは注意し合い、困っていたら助け合う。
- ③ お友だちと一緒に歩いても、話に夢中になって安全確認をおろそかにしない
- ④ 道路を横断する時は（信号のない道路を横断する時も）、必ず手を上げて車の運転手に渡ることを知らせて、車が止まったら渡る。止まってくれた車に会釈でお礼の気持ちを伝える。
- ⑤ いつも走らないで歩く。あわてたりあせって急いだりすることが事故のもとです。

「伝え合う力（聴き合い伝え合う力）」＝互いの考えをしっかりと聴き合い、よりよい方法を生み出す話し合いをする力を育てる

対話（コミュニケーション）の基本は、あいさつ・返事です。地域の方とのいろいろな会合で、「最近子どもたちのあいさつがとてもよくなっている。」というお褒めの言葉をたくさんいただいております。まずはご家庭の中で、朝起きたときから夜寝るときまで、「あかるく笑顔で」「いつでも誰にでも」「さきに目を見て」「つたわる声で」、あいさつの実践をお願いします。爽やかなあいさつは、社会人になってからも大切な「生きる力」の一つです。

お子さんの話を最後までしっかりと聴いて下さい。まだまだ脈略が繋がらなかつたり、主述がずれていたり、たどたどしい表現がたくさんあると思います。そんな時こそ、子どもの思いをゆっくりと引き出しながら、「あなたはそう感じたのね。」と共感的に受け入れて下さい。自分の話をたっぷり聴いてもらった子どもは、どんどん言葉が豊かになっていきます。また、人の話もきちんと聴くことができるようになります。お忙しい毎日とは思いますが、お子さんとの豊かな対話を心がけてくださるようお願いいたします。

「思いやり（自分も相手も大切にすること）」＝違いを認め合い、自他とともに尊重しながら寛容な心で接する力を育てるために

校長講話の中で、「くずにはくずのそちからがある」というお話と「親切のぐるぐるまわし」のお話をしました。世の中には全く同じ人は一人もいません。双子の兄弟でも違います。一人一人の違いをお互いに認め合って、思いやりの気持ちで接することは、気持ちのよい人間関係を築いていく上で、とても重要です。少しの違いや友達の間違いを馬鹿にしないこと、友達の名前に「くん」「さん」を付けて呼び合うこと、誰もが一生懸命に生きており、幸せに生きる権利を持っていることを、ご家庭でもご指導ください。

誰もが認められる安心した人間関係の中で、一人一人が存分に自分の力を発揮して伸びることができる学校を目指します。